

カンキツ「不知火」高接樹の枝梢管理法

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

「不知火」は新梢が短く樹冠拡大が遅れるため、早期収量が少ないことが課題である。そこで早期成園化を図るため、高接樹の新梢発生及び翌年の着果、果実品質に及ぼす枝梢管理法の影響を明らかにする。

研究の成果

1. 春枝を摘心せず7月20日に45度程度上方に斜めに誘引した無摘心区(簡易被覆)は摘心区(簡易被覆)、摘心区(露地)より新梢の発生本数が多かった。
2. 樹冠容積は、無摘心区(簡易被覆)が最も大きく、次いで摘心区(簡易被覆)、摘心区(露地)であった。
3. 高接翌年の着花数は区間でほとんど差はなかったが、着果率では無摘心区(簡易被覆)が最も高く、次いで摘心区(簡易被覆)、摘心区(露地)の順であった。
4. 摘心区(簡易被覆、露地)に比較して、無摘心区(簡易被覆)の果実は果面がやや滑らかでしかもデコの発生が高率で、果皮色も良好であった。
5. 糖度、酸度とも無摘心区(簡易被覆)が高く、次いで簡易被覆の摘心区で、露地の摘心区が最も低かった。
6. 「不知火」の高接樹は、接木後伸長した春枝を無摘心のまま7月下旬に誘引することにより、新梢の発生が多くなり、樹冠が拡大し、翌年の着果率及び果実品質も向上する。

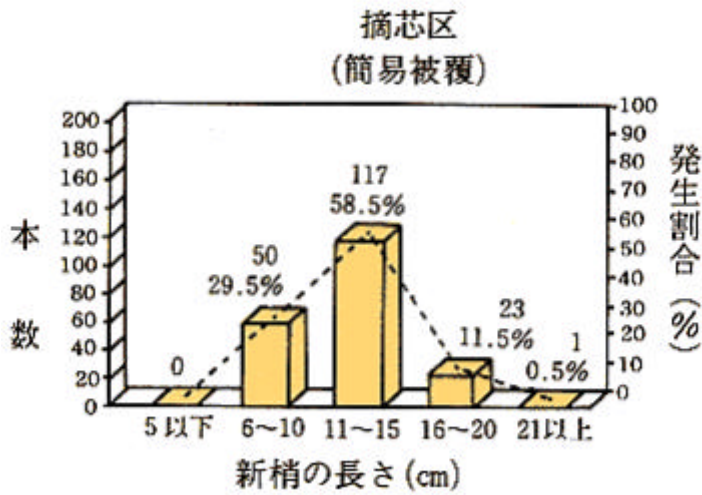
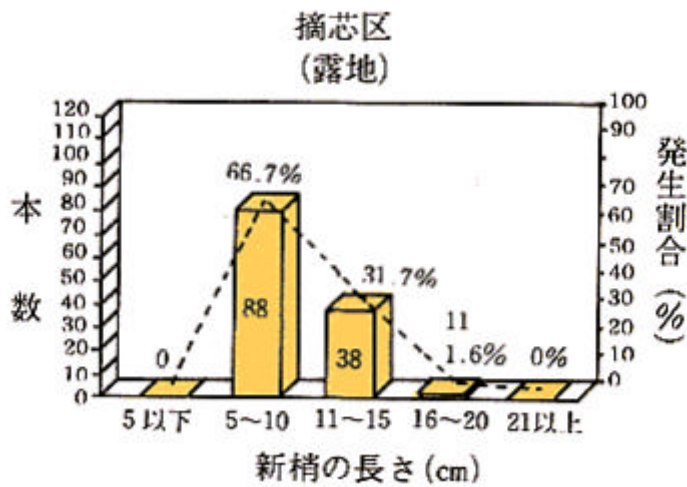
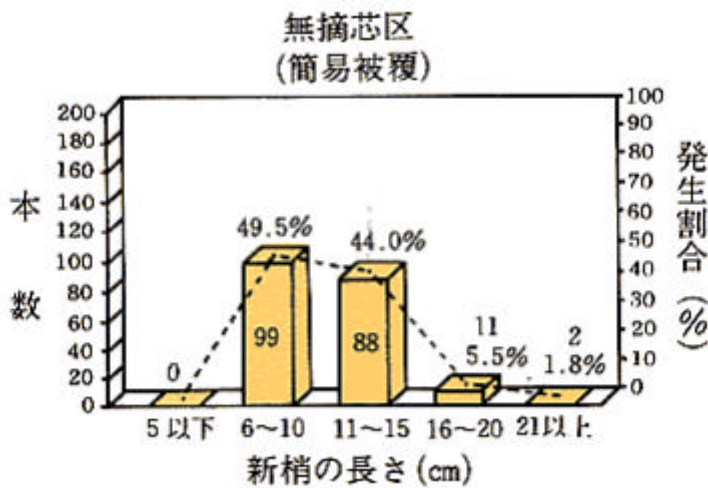


図 1
高接後の枝梢管理と新梢発生割合
(摘芯区：簡易被覆)



(摘芯区：露地)



(無摘芯区：簡易被覆)

表 1 枝梢管理と新梢発生・樹容積

区	項目 処理	処理後の春枝の長さ	樹当たり新梢発生本数	内 訳 (%)		春枝 1 本 当たり新梢 発生本数	樹 高 (m)	樹 巾 (m)	樹 高 (m)	樹容積 (m ³)
				夏 枝	秋 枝					
簡易被覆	摘 心 区	24.2cm	206本	25.2	74.8	14.7本	1.8	2.0	1.9	4.8
	無摘心区	37.4	274	36.5	63.5	16.1	1.8	2.1	1.9	5.1
露地	摘 心 区	24.2	137	49.6	50.4	12.4	1.7	1.9	1.7	3.8

表2 着花(果)性(平成3年)

項目		着葉数	新葉率	着花数	有葉花率	葉花比	着果数	有葉花率	葉果比	着果率
区	処理									
簡易被覆	摘心区	276枚	62.4%	23花	94.5%	12.8枚	6果	100%	50.6枚	27.7%
	無摘心区	241	65.4	20	100	12.1	6	100	40.2	41.2
露地	摘心区	269	72.1	23	95.6	11.7	6	100	44.8	30.9

表3 果実の形質(平成3年)

項目		果面の粗滑程度(%)					
区	処理	滑(0)	やや滑(1)	中(3)	やや粗(5)	粗(7)	粗滑指数
簡易被覆	摘心区	0	17.6	27.7	26.9	27.8	61.4
	無摘心区	0	18.7	29.1	26.8	25.4	56.7
露地	摘心区	0	0	20.0	35.0	45.0	78.6

項目		デコの発生程度(%)				
区	処理	無(0)	軽(1)	中(3)	甚(5)	発生指数
簡易被覆	摘心区	0	19.0	34.8	46.2	71.0
	無摘心区	0	6.4	24.9	68.7	85.0
露地	摘心区	11.3	28.8	43.0	16.9	48.5

表4 果実の品質(平成3年)

項目		糖 度					酸 度(%)				
区	処理	月日 11.27	12.21	1.21	2.21	3.21	月日 11.27	12.21	1.21	2.21	3.21
簡易被覆	摘心区	12.0	13.6	15.3	16.4	17.1	1.72	1.70	1.60	1.59	1.35
	無摘心区	11.4	14.3	15.3	17.4	18.6	1.75	1.71	1.59	1.55	1.43
露地	摘心区	10.6	14.3	14.5	16.6	16.7	1.65	1.56	1.40	1.35	1.13